

# 胃がん予防 大きな前進

## ピロリ菌 胃炎での除菌も保険適用へ

胃がんや胃潰瘍の大きな原因とされるピロリ菌。胃潰瘍などの病気がなければ胃からの除菌は、これまで公的保険の対象ではなかったが、軽い胃炎でも保険適用が認められる見通しになった。日本人に多い胃がんが劇的に減るのではないかと期待がかかる。

## 50代以上の感染率は80%

がんのなかでも日本人に最も多い胃がんの患者は、約21万人とされ、年間約5万人が亡くなる。胃がんは、がんの死因では2位だ。川崎医科大学（岡山県倉敷市）消化器センター長の春間賢教授は「例えば高校を卒業した時に、ピロリ菌の感染検査と除菌治療をする。こんな方法で除菌が広がれば、胃がんの数は激減するはずだ」と話す。

5千人でピロリ菌感染の有無を調べ、10年間追跡した。その結果、感染していた人の3%が胃がんになり、感染していなかった人では1人もいなかった。08年には、「除菌をすれば胃がんの発生が3分の1になる」と発表された。日本ヘリコバクター学会は09年、胃がん予防のために除菌を勧める指針を出した。

子どもは、ピロリ菌を持った親から感染するケースもある。春間教授は「中年はもちろん、胃がんになった場合に進行が速い若い人も、一度は検査してほしい」と呼びかけている。

## 抗生物質飲みしつかり治療

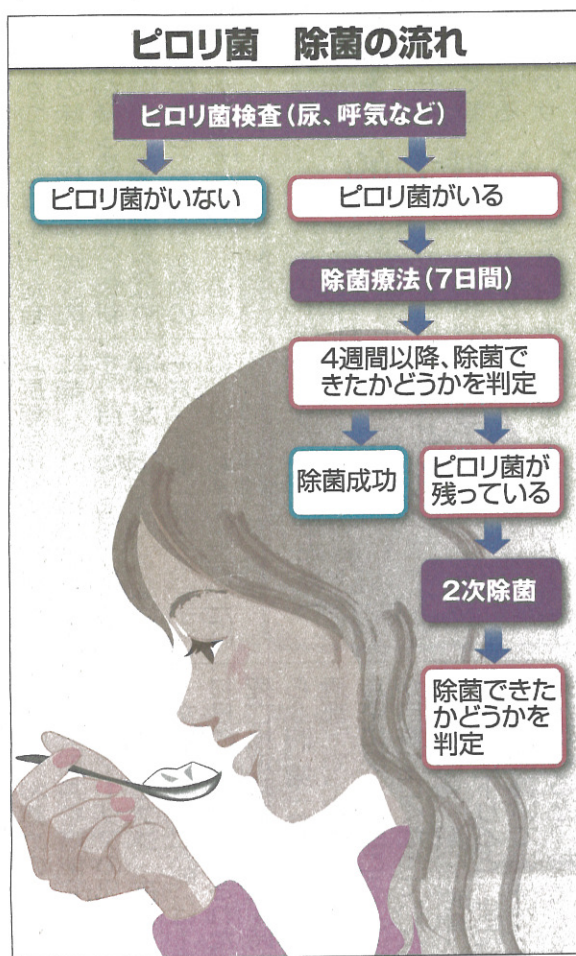
春間教授によると、「日本人で胃がんの人はほとんどピロリ菌に感染している」という。「29歳以下の感染率は約30%と低い、その世代で胃がんになった人の9割以上に感染がある」。ピロリ菌と胃がんの関係は長年研究されてきた。2001年に発表された日本人を対象とした調査では、約1万

ピロリ菌は世界中に存在する細菌だ。50代以上の日本人では特に感染率が高く、80%程度という。多くの人は5歳までの子どもの頃に井戸水や便、感染者からピロリ菌に感染。ピロリ菌が、胃の粘膜に定着すると胃炎になる。この状態から長い年月をかけて一部が胃潰瘍や胃がんに変化するようになる。

ピロリ菌の除菌治療はこれまで、胃・十二指腸潰瘍や早期胃がんの治療後など、4種類の疾患で保険適用されていた。ピロリ菌がいても、そうした病気がない場合の除菌は自費診療となり数万円必要だった。だが近く、胃の慢性胃炎と診断されれば、保険で受けられるようになる。

実際の除菌治療では、「アモキシシリン」「クラリスロマイシン」の2種類の抗生物質と、胃酸を抑える薬剤を1日2回、7日間飲む。4週間以上あとの、除菌できたかどうかを検査するIIイラスト。

東海大学医学部の古賀泰裕教授によると、「最初の治療で除菌できるのは70%程度」という。ピロリ菌除菌後に胃酸が増えて、胸焼けなどを起こす逆流性食道炎の症状が出る場合がある。「その際にもヨーグルトを食べることで症状が抑えられる効果も期待できる」と古賀教授は話す。



The Asahi Shimbun



ピロリ菌

正式名はヘリコバクター・ピロリ。人などの胃の粘膜にすみつく細菌。慢性胃炎や胃、十二指腸潰瘍、胃がんの発生原因となる。胃酸で強い酸性となる胃の中では、細菌は生息できないと考えられてきたが、1982年、オーストラリアのロビン・ウォーレンとバリー・マーシャルがピロリ菌の培養に成功。マーシャルは、培養した菌を自ら飲んで胃潰瘍を発症し、病原性を証明した。この功績で2人は、2005年のノーベル医学生理学賞を受賞した。



春間賢・川崎医科大学教授

除菌が失敗するのは、患者が下痢や腹痛などの副作用で、きちんと薬を飲まないケース。また、クラリスロマイシンに耐性を持つピロリ菌がいるためだ。最近では成功率が下がる傾向があり、耐性菌が増えているのでは、という指摘がある。

除菌が失敗した場合、薬の種類を変えて再び除菌療法を行う。古賀教授によると、除菌の成功率を高めるには「薬を飲む2〜4週前にヨーグルトを食べる、という方法があります」という。

特定の菌株のヨーグルトには、ピロリ菌の抑制効果があることが分かっている。同大の高木敦司教授らの研究で、除菌の3週間前からこのヨーグルトを1日180g食べると、除菌の成功率が12%程度高くなった。また、耐性菌を持つ患者でみると、約15%だった成功率が50%以上に、「このヨーグルトが耐性菌に対しても効果があると示しています」。

ピロリ菌除菌後に胃酸が増えて、胸焼けなどを起こす逆流性食道炎の症状が出る場合がある。「その際にもヨーグルトを食べることで症状が抑えられる効果も期待できる」と古賀教授は話す。

(朴琴順)

ピロリ菌の除菌治療薬。3種類の薬が1日分ずつパックされている

ピロリ菌の電子顕微鏡写真 (古賀教授提供)